



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛭池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127

平成 18 年 (2006 年) 11 月 20 日 第 22 号

初期対応

～危機管理の「さしすせそ」～

「^さ最悪を^し想って、^す慎重かつ^せ素早く、^そ誠意を持って、組織で取り組む」

と、ある書籍に記されておりました。

「危機管理は、危機を危機と感じたときに始まる」といわれます。地震・火災・外部からの侵入者等、重大なことがらは勿論のこと、日頃の子どものけがやトラブル、保護者対応も、その鉄則が必要だと思います。

「小さな訴え」を危機と感じ、最悪のことを思い、誠意ある態度をもって対応することで、「大きな難題」になることを防ぐことができるかもしれません。連日報道され、社会的に大きな問題となっている「いじめ」の問題も同様かと思えます。

教育相談業務に関わっていて、保護者との信頼関係づくりの一つとして、危機管理意識と初期対応の大切さを痛感しています。

(大屋)



教育相談からのお知らせ

【教育相談の継続相談は、しばらく待機】

教育相談では、今まで初回相談枠を増やし初期対応に努めてきました。そのため、現在、継続相談枠が満杯状態となっています。

そこで、11月より、初回相談後の定期的な継続相談は、しばらく待っていただくことをお願いしています。相談枠が空き次第、必要な方から継続的な相談を行っていくこととします。(例外：児童虐待ケース等)

なお、初回相談は今まで通り実施し、初期対応については早い対応を心がけていきたいと思えます。

【教育相談総合窓口の電話相談時間の延長】 TEL 6840-8121

「いじめ」等の問題を早期に発見し、適切な対応をとる必要から、電話相談時間を12月28日までは、通常17時までのところ、20時まで相談を受けつけています。

時 間：月曜～金曜の9時～20時 <12月28日(木)まで>

小中学生理科展・科学教室

第52回小中学生理科展を9月14日(木)～18日(月)の5日間にわたり豊中市教育センターを会場に開催しました。小中学校合わせて461点の出展があり、来場者はのべ約1100人に達しました。小中学生の作品に参観者からは、感心する声が多く聞かれ、後日開催された大阪府学生科学賞では、第十三中学校2年生が優秀賞を、第四中学校が学校賞を受賞しています。



また、理科展の開催に合わせ、9月17日(日)、18日(月)に小中学生とその保護者を対象に、タッチ・座・サイエンス「科学教室」を開催しました。2日間で、200名を超える参加者がありました。第四中学校自然科学部の生徒たちは「いろいろな電池実験」「葉脈標本づくり」の2講座を受け持ち、熱心に指導していました。

産業技術総合研究所 牧原正記先生の「無重力を体感しよう」の講座では、ペットボトルを用いて無重力状態を作る実験が紹介されました。ものが落下する時に無重力状態になること、人工衛星は常に地球に向かって落下している状態にあることなどを学習しました。参加者は科学の織りなす不思議に目を輝かせ、歓声を上げていました。

ネットワーク配信コンテンツ活用事業について

豊中市が参加しているネットワーク配信コンテンツ活用推進事業では、15時以降のコンテンツ(教材)の試用が可能です。

一度ご覧いただいて、コンテンツ(教材)の評価をいただきたいと思っています。この事業の効果を検証するため、コンテンツが使いなかつた理由もふくめ、多くの評価をいただきたいと考えています。アンケートを小中学校に送付しておりますので、ご協力をお願いします。



また、授業でのご活用をお考えの際には、申込書を送付いただくとともに、ネットワーク上での申込手続きをお願いいたします。

試用や申込に必要なユーザー名、パスワードは以前にお伝えしたものです。(不明の場合は、係までお問い合わせください。)

なお、ネットワーク配信コンテンツ活用事業では、次のコンテストを行っておりますので、ふるってご参加ください。

- ・授業活用実践コンテスト(12月末締め切り)
- ・アイデアコンテスト(1月8日締め切り)

※ 連絡先 豊中市教育センター 情報・科学教育係
電話 06-6844-5294

サイエンスカフェ！開店！OPEN！！

「MRIの検査は、少し時間がかかる。また、音もうるさい。しかし、体中の水の微妙な変化をとらえているので、造影剤などを飲まなくてもよく体に優しい。」と

「MRIの世界」のお話をユーモアを交えながらお話された大阪大学総合学術博物館長 江口太郎先生が、第1回サイエンスカフェ（10月14日（土）豊中市社会教育活性化推進委員会主催）のゲストでした。カフェの名のとおり、コーヒーを片手に、参加者は、土曜日の朝のひとときを過ごしました。土曜日の朝、アカデミックな話をききながらのコーヒーはいかがでしょう。

第2回サイエンスカフェ

11月25日（土）10時～

ゲスト 神戸大学大学院助教授 中村昭子先生

「冥王星とイトカワと小天体」

詳細は、教育センターホームページ

(<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/educ>) にて

デジタルコンテンツを活用した公開授業

「IT環境を利用した科学技術理科教育のためのデジタル教材活用共同研究（理科ねっとわーく）」の公開授業が実施されました。中豊島小学校（10月18日実施）では、伊庭寛教諭による5年生の「雲の変化と天気予報」が公開されました。「マルチビュー天気教材」を使用し、雲の形や動きと天気の変化を考えていく授業でした。児童たちは、マウスを操作しながら楽しそうに雲の形や特徴を調べて、ワークシートに記入していきました。最後に雲の様子についてわかったことをワークシートにまとめ、「雲の形や動きが天気の変化と大きな関わりを持つこと」などに気づき、積極的に学んでいる姿が見られました。

第四中学校（10月25日実施）はブロック交流研修（アカデミー研修）と兼ねて実施されました。上島美幸教諭と宮本渉教諭による3年生の少人数指導「太陽と月」の授業、稲葉直美教諭による2年生「血液とその循環」の授業が公開されました。3年生では「現在の太陽系」「太陽表面の様子」等のデジタルコンテンツが使用されていました。2年生では「循環器系のしくみと生体力学」が使用されました。

両日とも科学技術振興機構の担当者、大阪府教育センターの理科教育担当者等も参加され、授業終了後は活発な研究協議が行われました。実物を見ることのできないものを動画で見せることができるなどデジタルコンテンツの活用は有効であることや、ワークシートとの併用、実際の実験・観察とデジタルコンテンツをバランスよく用いることの有用性が話し合われました。

「理科ねっとわーく」のデジタルコンテンツは、<http://www.rikanet.jst.go.jp/>で公開されています。デジタルコンテンツの活用で授業に新しい境地を開いてみてはいかがでしょう。



日本一の球団から感じたこと

今年の日本プロ野球界では、日本ハムファイターズが大きな話題となりました。日本シリーズが行われたのも記憶に残るところです。その中でも、新庄剛志選手は大きく取り上げられていました。彼が注目されるのは、選手としての技量はもちろんですが、その独特のパフォーマンスにあると思います。彼は自分の身を削り、ファンのために球界を盛り上げているように見受けられます。

日本ハムでの彼は生き生きしています。この球団は、他球団なら受け入れられていなかったらうそのスタイルを、肯定的なものとして受け入れたのです。それにより、彼は大きな力を発揮して、球団だけでなく球界にも大きな影響を与えたのではないかと思います。この球団の対応は、私たちが子どもと関わる際にもヒントになるかもしれません。

私たち大人は、未知なものに出会うことに戸惑いを感じる時があります。たとえ、それが本質的には肯定せざるをえないようなことでも認められない場合があると思います。心理学の世界では、未知なもの、また、一見、異質とされるものには、大きな力が宿ると言われています。時折、私たちの想像を超えるような言動をする、子どもとはそういった存在と考えられるのではないのでしょうか？

授業中にいつも、目立つ言動を繰り返す子どもがいたとします。その言動自体は、明らかに悪いことではないとしても、先生としては対応していいのか困り、つい注意するケースが多いのではないのでしょうか。もちろん、授業という場を考えると、先生がそれを注意するのもやむを得ないことです。先生の対応は、その子どもの言動を自身の経験してきた『常識』の枠内で理解しようとした結果であると、考えてみることができます。もしかしたら、未知なもの、分からないことに対して、認めたくない気持ちが動いたのかもしれない。

けれども、注意された子どもにはどういった思いが湧くのでしょうか。表面上は、困ったことに映るにしても、その子の言動には、そうしなければ生きられないという、切なる思いや表現が存在していたのかもしれない。それを受け入れてもらえないとなると、子どもは一層孤独になり、子どもたちの間からも孤立してしまうかもしれません。私たちに求められることは、一見、理解できないことであっても、一度、それを受け止めて、見方を変えようとする姿勢を持つことです。その言動のもつ肯定的な側面に焦点を当てることを考えてみませんか。今までの目線を少し変えてみれば、思わぬ副産物が返ってくるかもしれません。子どもたちには、未知な大きな力が秘められているのですから。(望月)

